

企業の新たな目的： あるいは最初から分かっていたこと



Daniel Perrone
ディレクター兼オペレーションのヘッド、ESG 指数

この資料は、2020年5月11日に弊社ブログ Indexology® に掲載された文書の翻訳版です。英語版と日本語版の間に内容の相違がある場合は英語をご参照下さい。

英語版: <https://www.indexologyblog.com/2020/05/11/the-new-purpose-of-a-corporation-or-what-weve-known-all-along/>

コメントする場合は[ここをクリック](#)》

昨年夏の終わり、200名近くの最高経営幹部(S&P グローバルの最高経営責任者(CEO)である Doug Peterson を含む)は、株主価値だけでなく、すべての主要な利害関係者の価値に重点を置いた企業の目的に関する新たな声明^[1]に署名しました。この宣言では、雇用主が長期的な成長や成功を確保する上で投資する必要のある人々(従業員、お客様、及びコミュニティ)に着目しています。社会全体への企業の貢献に改めて注目することは、サステナブル投資の需要が高まっていることに沿ったものです。プロの投資家が運用している資産の4分の1は現在、環境・社会・ガバナンス(ESG)への考慮を組み込んでいます^[2]。

S&P/Drucker Institute Corporate Effectiveness Index (S&P/ドラッカー・インスティテュート・コーポレート有効性指数)の構成銘柄の選択と構成比率の根底となっているものは、経営の第一人者であるピーター・ドラッカー氏の原則であり、彼は50年以上も前にこの原則を説き示すことを始めました。ビジネスウィークが「経営を発明した男」と称したことで有名なドラッカー氏は、上手く経営を行うだけでなく、正しい事を上手く行うことの「有効性」を体系化しました。

ドラッカー・インスティテュートは、企業が顧客満足度や、従業員のエンゲージメント及び人材開発、イノベーション、社会的責任といった正しい事柄をどれくらい上手く実践しているかを測定するために、厳格なシステムを開発しました。S&P/ドラッカー・インスティテュート・コーポレート有効性指数では、これらの尺度と S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスのクオリティ・スコアを組み合わせています。その理由は、最終利益が唯一の判断材料ではなく、その他にも何かがあるからです。

この指数は、価値を創造する一方で、リスクも管理することを目指す企業経営全般を総合的に評価するための単一の尺度であると言えます。

図表 1: S&P/ドラッカー・インスティテュート・コーポレート有効性指数と S&P 500®のパフォーマンス比較

Exhibit 1: S&P/Drucker Institute Corporate Effectiveness Index Performance versus the S&P 500®		
PERIOD	S&P 500	S&P/DRUCKER INSTITUTE CORPORATE EFFECTIVENESS INDEX
ANNUALIZED RETURNS (TOTAL RETURN, %)		
5-Year	8.27	10.51
3-Year	7.96	10.22
1-Year	-1.22	1.19
EXCESS RETURNS (%)		
5-Year	-	2.24
3-Year	-	2.26
1-Year	-	2.41
ANNUALIZED RISK (INDEX VOLATILITY, %)		
5-Year	14.70	14.56
3-Year	16.79	16.56
1-Year	23.56	23.33
RISK-ADJUSTED RETURN		
5-Year	0.56	0.72
3-Year	0.47	0.62
1-Year	(0.05)	0.05

Source: S&P Dow Jones Indices LLC. Data as of May 1, 2020. Past performance is no guarantee of future results. Table is provided for illustrative purposes and reflects hypothetical historical performance. The S&P/Drucker Institute Corporate Effectiveness Index was launched Feb. 4, 2019.

2020年5月1日までの1年、3年、及び5年の各期間において、S&P/ドラッカー・インスティテュート・コーポレート有効性指数は、ベンチマークであるS&P500を毎年200bps以上アウトパフォーマンスしました。実際に、最大のアウトパフォーマンスは過去12ヶ月において見られ、企業やその経営陣の総合的な見方が極めて重要であることが浮き彫りとなりました。さらに注目すべきことはリスクの数値であり、同じ期間のS&P500と比較して、この指数のボラティリティは低い一方で、リスク調整後リターンが高いことを示しています。

こうした種類のアウトパフォーマンスと、総合的なESG原則や、指数が連動する企業によるこれらの原則の支持が合致することは、そう頻繁に起こることではありません。S&P/ドラッカー・インスティテュート・コーポレート有効性指数は、善行することを望む投資家には関連性を、上手く行うことを望む投資家にはパフォーマンスを、両方が最高であることを望む投資家には有効性を提供することが可能です。

[1] <https://www.businessroundtable.org/business-roundtable-redefines-the-purpose-of-a-corporation-to-promote-an-economy-that-serves-all-americans>

[2] Kell, Georg. “[The Remarkable Rise of ESG](#).” Forbes. July 11, 2018.

Kell・Georg 著：「[The Remarkable Rise of ESGG](#)」、フォーブス誌、2018年7月11日刊）

引用：

[Corporate Effectiveness](#), [Drucker](#), [ESG](#), [sustainability](#)

S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス免責事項

©S&Pグローバルの一部門である S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC 2020 年。不許複製。Standard & Poor's、S&P、は、S&Pグローバルの一部門であるスタンダード・アンド・プアーズ・ファイナンシャル・サービシーズ LLC (以下「S&P」)の登録商標です。「ダウ・ジョーンズ」は、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズ LLC (以下「ダウ・ジョーンズ」)の登録商標です。商標は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC にライセンス供与されています。本資料の全体または一部の再配布、複製、そして(または)複写を書面による承諾なしに行うことを禁じます。本資料は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC、ダウ・ジョーンズ、S&P 或いはそれぞれの関連会社(これらを合わせて「S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス」という)が必要なライセンスを持たない地域におけるサービスの提供を行うものではありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC が提供する全ての情報は、個人とは無関係であり、いかなる個人、事業体または集団のニーズに合わせて調整したものではありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、その指数を第三者にライセンス供与することに関連した報酬を受けています。指数の過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。

指数に直接投資することはできません。指数が表すアセット・クラスへのエクスポージャーは、指数に基づく投資可能商品を通して得られます。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、第三者が提供し、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスの指数のリターンに基づく投資リターンを提供することを目指す投資ファンド、或いはその他のビークルを提供、推奨、販売、宣伝、或いは運用することはありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、指数に基づく投資商品が指数のパフォーマンスに正確に連動し、プラスの投資リターンを上げることについて保証しません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC は投資顧問会社ではなく、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、そうした投資ファンド或いはその他の投資ビークルに投資する適否に関して表明することはありません。そうした投資ファンド或いはその他の投資ビークルへの投資決定は、本資料で言及されたいかなる部分も信頼して実行されるべきではありません。そうしたファンド或いはその他のビークルに投資しようとする投資家に対して、投資ファンド或いはその他のビークルの発行体またはその代理人が作成する目論見書または類似文書に記載されているように、そうしたファンドへの投資に伴うリスクを注意深く検討した上で投資することを助言します。指数への証券の組入は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスによるその証券の買い、売り、または保有の推奨ではなく、また投資助言でもありません。S&P の米国のベンチマーク指数及びダウ・ジョーンズの米国のベンチマーク指数の終値は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスが、指数構成銘柄の各主要取引所が設定する終値に基づいて計算します。終値は S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスがサードパーティ・ベンダーの 1 社から受け取り、別のベンダーから届く価格と比較することにより検証されます。各ベンダーは終値を主要取引所から受け取ります。日中の実時間価格は、2 次検証を経ずに同様に計算されます。

これらの資料は、信頼できると考えられる情報源から一般に公衆が入手できる情報に基づき、情報提供のみを目的として作成されたものです。本資料に記載されるいかなる内容(指数データ、格付、クレジット関連の分析とデータ、モデル、ソフトウェア、或いはその他のアプリケーションまたはそれからの出力)も他のいかなる部分(以下「内容」という)も、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスによる事前の書面による承認なくして、いかなる形式といかなる手段によっても、改変、リパースエンジニアリング、再製または配布、或いはデータベースまたは検索システムへの保存を行うことはできません。内容を、不法な或いは未認可の目的に使用してはいけません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス及びいかなるサードパーティ・データ・プロバイダー及びライセンサー(合わせて「S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者」という)も、内容の正確性、完全性、適時性或いは利用可能性を保証しません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者は、いかなる過誤、遺漏についても、原因の如何を問わず、内容を用いて得られた結果について責任を負いません。内容は、「現状」ベースで提供されています。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者は、特定の目的または利用に対する販売可能性または適合性についてのいかなる保証も、バグやソフトウェアのエラーまたは欠陥がないこと、内容の機能が中断されないこと、或いは内容が何らかのソフトウェアまたはハードウェア構成により動作することの保証も、以上を含みそれに限定されない、あらゆる明示的または暗示的保証も拒否します。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者は、いかなる場合も、いかなる当事者に対しても、内容の使用に関連して発生する、いかなる直接的、間接的、偶発的、典型的、補償的、懲罰的、特殊な或いは結果的な損害、費用、経費、法的費用、或いは損失に対しても(逸失収入または逸失利益、及び機会費用を含みそれに限定されず)、たとえ損害の可能性について事前に通告を受けていようと、責任を負いません。

S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、各事業部の活動の独立性と客観性を維持するために、それぞれの活動を他から隔離しています。その結果、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスの一部の事業部は、他の事業部では入手できない情報を保有する可能性があります。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、各分析プロセスの中で受け取った非公開情報の機密を守る方針及び手順を確立しています。

さらに、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、広範なサービスを、証券の発行体、投資顧問会社、証券会社、投資銀行、その他の金融機関及び金融仲介業者など多くの組織に提供しています。したがって、これらの組織から報酬その他の経済的便益を受ける可能性があります。これらの組織には、証券やサービスを推奨し、格付け評価し、モデルポートフォリオに組入れ、評価するか別の対応を行う組織が含まれます。

最新のブログ「[Indexology](https://www.indexology.com)」(英語) をご覧になりたい方は、こちらのサイト www.indexologyblog.com よりご登録いただけますと、更新の都度メッセージが届きます。